

原理・構造

[原理]

肛門に接するストラップが会陰体を挙上し、その上部にある後壁を前壁に圧接して臓器の下垂を留める

会陰体は、骨盤底筋群の中心に位置し弾力性に富むことから、体表面から加える力を有効に体内に伝達できます。また、サポーターの力で腔の閉鎖状態を保つのに必要な変位と圧力を容易に確保できます。



ストラップの経路
(点線…従来の脱疾治療器具)

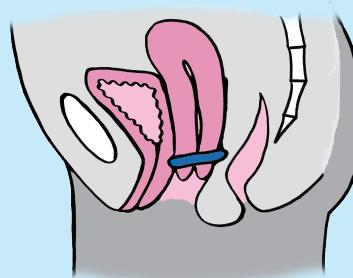


[構造]

腹圧を上げない} 腹圧と保持力が運動する} 構造で、姿勢が変化してもしっかり支えて苦しくない

保存療法の新しい選択肢に！！

〈ペッサリー〉

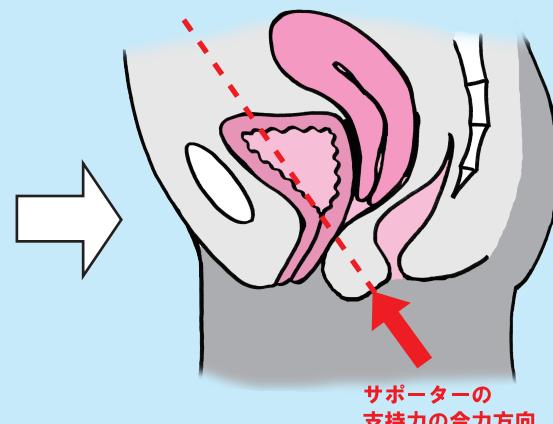


△自己着脱できれば効果的な治療法

△後壁下垂やPOP手術後の再発、SUI等では不適合例がある

△サイズ選定・自己着脱指導等に看護師の労力負担が大きい

〈アダム医健の骨盤底サポーター〉



サポーターの支持力の合力方向

◎腔を閉じた状態にして下垂を留めるので、多様な症例に適合する

◎深部で下垂を留め、初期症状改善や手術前後の使用にも適する

◎下着の上から着用でき、着脱も簡単

◎体の動きに追従し軽度の運動もできるので、行動の制約が少ない

※重度の会陰体損傷のある患者様には適用不可
(会陰切開後の患者様は、傷口が完治してからご使用ください)

POP-Q分類全てのステージの患者様で実績があります。

効果

山梨大学医学部との共同研究で、アダム医健の骨盤底サポーターは「効果的かつ安全な骨盤底器脱保存療法の新しい選択肢である」と評価されました。

【右図】膀胱造影による評価

- ・骨盤底サポーター着用により、臓器の下垂が防がれています。
- ・怒責時も効果が持続します。

- 着用評価での患者様の感想の例 -

- 「トイレの回数が減った。臓器が下がる不快感がない。」
- 「簡単に着用できてよい。」
- 「動くのが安心になった。」

安静時



骨盤底サポーター着用前
着用中



Taniguchi T, Kobayashi Y, Kobayashi H, Mitsui T, Takaoka T, Yoshiyama M, Takeda M. University of Yamanashi. Evaluation of a novel underwear which supports the pelvic floor in pelvic organ prolapse patients. ICS2016 より引用

使用方法

- ①臓器の下垂を戻した状態で、ショーツの上に重ねてはく
- ②左右の面ファスナーを引き上げて留める
- ③背面のストラップの緩みをとる

